別紙　1

しまね学校図書館活用コンクール
応募票

学　校　名	東出雲町立東出雲中学校
学　校　長　名	大　森　栄　二　　印
記載責任者名	
連絡先電話番号	（０８５２）５２　－２４５５

（　　）

読書活動

1　取組の概要

2　読書活動の資料・作品・写真等

	活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無
1				有　・　無
2				有　・　無
3				有　・　無
4				有　・　無

（　○　）

学校図書館を活用した授業実践

1　取組の概要

2　学校図書館活用教育年間計画　※どちらかに○をつけてください。　　有　・　無

3　学校図書館を活用した授業実践の資料

	単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
1	情報リテラシーの育成	1	総合 技術 理科 国語 社会 総合	・図書館利用指導・全体計画・レポート ・インターネットの使い方 ・自由研究のためのレポートの書き方 ・横書きレポートの書き方・ ・統計資料の見方、図や表の見方 ・総合的な学習の時間振り返りｱﾝｹｰﾄ	３４ 4 5 9 1
2	命の授業	1	道徳	・指導略案 ・パワーポイント ・感想	2 2 3
3	江戸からのメッセージ	1	国語	・指導案 ・学習計画、ワークシート、感想など	3 １３
4	自然の中の生物	3	理科	・指導略案 ・学習の流れ他	8

※　読書活動または学校項図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに○をつけてください。

別紙　２

しまね学校図書館活用コンクール
取組の概要

学校名　　東出雲町立東出雲中学校

１　応募部門　※　応募する部門に○を付けてください。

（　　）読書活動部門

（ ○ ）学校図書館を活用した授業部門

２　実践のねらい

東出雲町は、教育の柱のひとつに「図書館活用教育」を掲げ、子どもたちの主体的な学びを保障するための図書館機能の充実を図っている。

小中学校が連携し、９年間を見通した「情報・メディアを活用した学び方の指導体系表」を作成し、情報リテラシーの育成に重点を置いている。

その恵まれた環境の中で本校では、

① 図書館を活用し、生徒が教科書教材等で「習得」した基礎的基本的な力を「活用」し「探求的」「主体的」な学習をすることで、生涯にわたって必要な情報リテラシーを身につける。

② 様々な可能性をもった学校図書館は生徒の学びの質を高め深くすることができると考え、日々の学習の中で図書館を多様、多角的に利用する。

との考え方で、図書館活用を実践している。

３　実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

① 情報リテラシーの育成

「情報・メディアを活用した学び方の指導体系表」に基づいて、学校図書館活用教育年間指導計画を作成している。中学校は、教科担任制であり、横にも縦にも連携が取りにくいところがある。そこで、３年間で「つけさせたい力」つまり目標をはっきりさせた上で、どの学年で・どの教科の単元で指導することが適切であるか、可能であるか、を全教科領域で考える必要がある。教科の特性を生かし、スキル学習を整理しながら三年間で系統的に学習を進めていけるように計画を立てている。

本年度は、理科教員からの「夏休みの自由研究のレポートが、きちんと書けない」との声に複数の教科で連携を取り、『レポートを書く』の学習を行った。これには、夏休みの理科の課題に間に合うように教科書では 2 学期になる国語科の「レポートを書こう」の単元を 1 学期に繰り上げ、総合のスキル学習の時間を使い、情報の取り方(引用、要約、著作権、情報カードの書き方、参考文献リストの書き方など)を学んだ。また技術科では、インターネット情報の使い方を学び、社会科の地理的分野の都道府県調べの中で数字データの読み取り、図や表の読み取りを行った。理科でも、再度夏休み前に時間を取り、過去の自由研究のレポートを参考にレポートの書き方を学んだ。

こうした、連携を取った学習の中で、「習得」した知識を実際に「活用」することができ、生徒の深い理解に繋がった。生徒が情報リテラシーを身につけることは、各教科で必要に応じて自分で「情報」を「つかみ」「まとめ」「伝える」ことができる基盤になると考えている。

※資料添付

② 日々の学習を支える図書館

図書館活用というと、「調べ学習」という感覚があると思うが、図書館が学校教育の重要なインフラになりつつある本校では、色々な教科、様々な場面で活用している。

・教科書だけでは、生活体験が少ない生徒には、実感がないままのことも多い。そこで、様々な資

料を有効に使って学習を進めていくと「教科書の文章の意味がやっとわかった！」と実感する授業に繋がっている。

・教科書に取り上げられている本などの実物を実際に使えば、授業の幅が広がる。

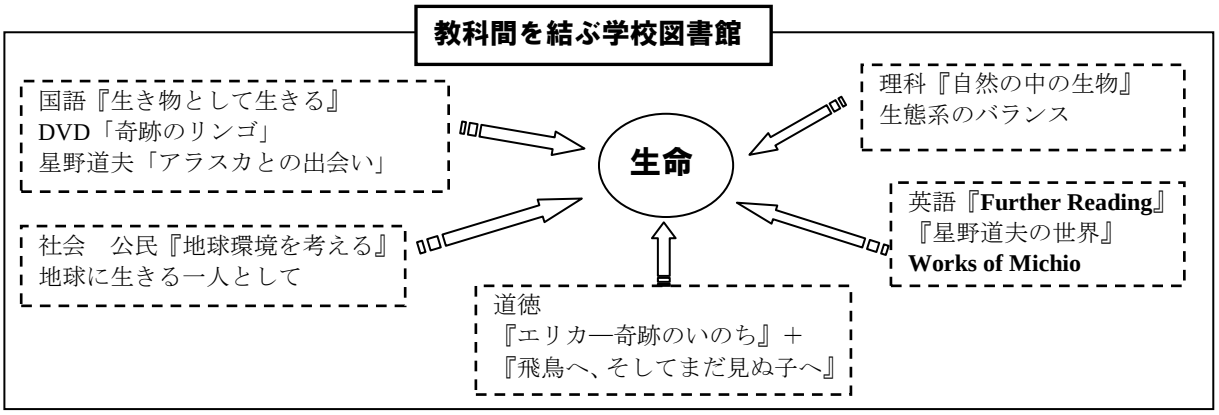
・豊富な資料を使って、自分の力で考え、自分の言葉で発表することにより、「読む」「書く」「話す」「聞く」力がついてきた。

※資料添付

③点から線へ、線から面へ

他教科の実践が見えにくく、全員で同じ実践が積みにくいのも中学校の特徴である。教科ごとに図書館を利用はしているが、他教科とのつながりがお互いにわかりにくく、それぞれが「点」としての実践になり、生徒たちにも実感として伝わりにくかった。そこで、その「点」をつなぎ「線」として他教科とリンクさせ、その繰り返しによって「面」にしていくのが、図書館活用であると実感している。教科を連携させて、コーディネイトしていくのが司書教諭であり、資料や情報の有効な使い方をアドバイスするのが学校司書の役割の一つと考え、日々実践を行っている。

例えば、三年生の三学期の実践事例を挙げてみる。いろいろな教科がリンクして、この時期の共通するテーマを「生命」として授業実践を行った。



4　実践の成果

スキル学習と教科での図書館活用を繰り返すことで、生徒に

① 情報リテラシーのスキルが身についた。

② 生徒が図書館を利用して自在に情報をつかむことができるようになり始めている。

③ 図書館を利用した学習は主体的に動かなければならず、自ずと 学習に前向きに取り組む姿勢も培っている。

④ 「わかった」を実感することで、楽しさを感じ、 充実感や達成感を口にする生徒が増えてきた。

⑤ 図書館を利用した授業では「知る」「見つける」「つかむ」「まとめる」「伝える」ことを求められる。そこで、 自分で掴んだ確かなことを発表する力(伝える力)が、少しずつ身につき始めている。

また、教員にとっても、

① 図書館の資料を使い、授業が深くなった。

② 他教科とのリンクがわかり、協働が増えた。(理科の授業に国語科が入る。数学科の授業に理科が入るなど)

③ 教員自身の図書館活用のスキルがあがってきた。

など、少しずつではあるが、学校教育に学校図書館が必要であることが分かってきたように感じる。